

今週の News

1. JSURP25 周年記念講演会・シンポジウム
2. 全まち 2020-2021 第一弾石巻セッション
3. 「研究会のあり方」について (中間まとめ)
4. 25 周年記念フォトブック「25年の軌跡」

■JSURP25 周年記念講演会・シンポジウム

12月5日午後1時より千代田区の丸ビル内マルビルホールにてJSURP25周年記念事業(講演会・シンポジウム)が開催されました。新型コロナの感染拡大が心配される中、無観客ライブ&オンライン配信方式での開催に急遽変更して実施されました。

★第1部

第1部では今年89歳になられた伊藤滋名誉会長による「JSURP 設立の想いと今後への期待」と題する講演、89歳とは思えない元気な姿と艶のある声、そして後続世代への叱咤激励に圧倒された30分でした。伊藤名誉会長からは協会の体制・人材の在り方、特に世間的にもアピールする突出したリーダー的人材の必要性を強調されました。また同様の視点から「千代田城天守閣の再建」プロジェクトの概要とその事務局をJSURPが担うなどの体制を含めた提案をされました。



★第2部

午後1時半からの第2部では、柳沢厚さんのコーディネート、鳥栖那智夫さん、小澤一郎さん(リモート参加)、笹原克さん、石川岳男さん、内山征さんの5人のパネリストによって「JSURPのこれまでと今後の展望」と題し



たセッションが行われました。JSURPのこれからの関連して鳥栖さんからは会員問題、小澤さんからは中心市街地問題、笹原さんからは国土計画などの提案を、石川さんからはコンサルタント各社の若手が集える場の提供を、内山さんからは各市町での今後の大規模災害に備えた復興まちづくりを支援する体制づくりなどの提案がなされました。

「JSURP Newsβ版」の試み

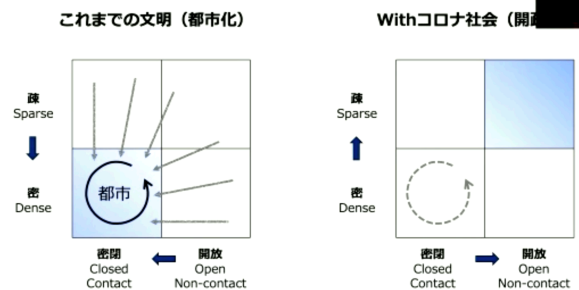
JSURPの多様な活動の「予告・案内」と「結果」を迅速に会員相互で共有することを目的としてJSURP Newsβ版を試行します。月2回発行予定
編集：渡会、中川、千葉、小谷

★第3部

休憩を挟んだ午後2時50分からの第3部では、まず慶應義塾大学環境情報学部教授の安宅和人さんのキーノートスピーチによって問題提起がなされ、その後JSURPの40~50歳代の理事6人を交えた「これからの社会と都市」セッションが行われました。

安宅さんの「残すに値する未来を考える」と題したキーノートスピーチは、現在の我が国と世界の置かれた位置、取り巻く課題、目指すべき未来、そのためになすべき事柄について、多岐にわたって明快な関連性のもとにシャープに論じられました。多くのキーワードが提示されたが、その一つが「開疎」であり「未来の方程式」です。

都市化と開疎化



安宅さんが最後に述べた「未来は目指すものであり創るもの」はまさに私たち都市計画家がとすれば見失いがちになっていた最も重要なテーマなのではないでしょうか。

安宅さんのキーノートスピーチの後には、安宅さんとほぼ同年代のJSURP理事6名によるセッションです。加藤孝明さんのコーディネート、小泉秀樹さん、鈴木俊治さん、臂徹さん、長谷川隆三さん、高鍋剛さんのJSURPの6人と安宅さんによって、「これからの社会と都市」と題し安宅さんの提示した論を踏まえ、「都市の集積」について考え、この30年間の変化を踏まえて「近未来の都市計画家」について論が交わされました。

最後に二人の副会長から「次世代JSURPの目指すもの」と題してこれからの「目指す未来」に向けた抱負が語られました。今回の記念事業の詳細は、改めて会報プランナーズで特集される予定です。

■全まち 2020-2021 第一弾石巻セッション

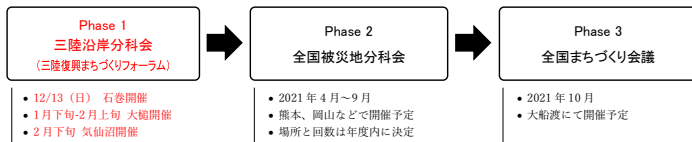
25周年記念の1週間後の12月13日(日)には全まち2020-2021の第一弾となる「石巻で震災10年を振り返る」が開催されました。

★「全まち2020-2021」とは

これは、2020年秋に予定していた「全まち2020 in 三陸」に代わり、2021年秋をゴールとする約1年にわたる通年シリーズとして企画している全まちの第一弾になるものです。

2020年度は三陸沿岸の被災地を会場として「東日本大震災からの復興10年を考える」をテーマに3回シリーズで分科会を開催します。

2021年度は、熊本地震や平成30年7月豪雨被災地などを会場として、「311以降、東日本大震災の経験として活かされたことと、各地で生まれたことを考える」をテーマとして3回シリーズで分科会を開催します。そして2021年10月にこれらを総括し「これからのまちづくりと事前復興を考える」をテーマとして全まち2020-2021を岩手県大船渡市内で開催します



★石巻で震災10年を振り返る

第一弾となる「石巻で震災10年を振り返る」は、石巻市の中心市街地にあるIRORI石巻で開催されました。

「IRORI石巻」は2011年12月に、被災したガレージをDIYで改装して作られたもので、当時石巻に集まる多くのボランティアなどが集まる場として親しまれてきました。2016年に改装され、コワーキング・コーヒーハウス・シェアオフィス等を兼ねたサードプレイスとなっています。



セッションは第1部「中心市街地の復興事業を振り返る～再開発事業とまちづくり」、第2部「ポスト復興—2021年からの石巻のまちづくりについて考えよう」の2部で構成、前半が主にハード系まちづくりの背景・経緯と現在における課題について、後半は主にソフトな活動について語られました。

第二弾は1月30日(土)に岩手県大槌町を会場としてオンラインハイブリッドで行う予定です。

■「研究会のあり方」について(中間まとめ)

研究会協議会では7月以降研究会のあり方に関する検討を重ね、11月20日の理事会に「研究会のあり方」について(中間まとめ)を報告、協議を行いました。

研究会については昨年研究会規定が改正されたことを契機に、「研究会」の再定義・研究会のあり方の再検討を行うことになりました。今回の「中間まとめ」で以下の試案(骨子)を提示し、理事会等での審議、会員アンケートなどを経て最終案の取りまとめを行いこととしています。

①研究会の理念

研究会は、会員の自発的提案のもとに、都市や地域づくりに関するテーマを定め、会員内外の多様な人々と共同・連携して、自由な立場で、研究や講演会、その他イベント活動等を実施し、特定のテーマを専門的に掘り下げ、その成果を発信していくことにより、社会の発展に寄与してJSURPのプレゼンスを高めるとともに、個人の資質向上にも資することを目的とする。

②研究会の方針

方針1: 研究会は多種多様なテーマ(会員規模の大小を問わず)を許容します。

方針2: 研究会員はJSURP会員のみならず、誰でも参加できるようにします。

方針3: 研究会の活動実態や、研究成果のJSURPへフィードバック、さらには外界へのそれらの情報・成果をより積極的に広報・発信していきます。

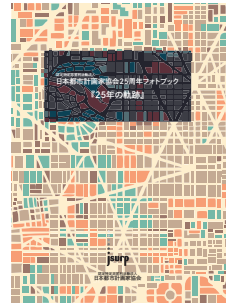
方針4: 研究活動を活性化につながるインセンティブや支援を強化します。

③方針に基づく具体の取り組み

1. 設立要件及び研究会員要件の再検討
2. 研究会活動の実態・成果の把握(研究会の義務)
3. 研究会活動に対する支援内容(研究会の権利)の明示
4. 研究会活動の活性化支援

■25周年記念フォトブック「25年の軌跡」

創立25年を記念して制作が進んでいた「日本都市計画家協会25周年フォトブック『25年の軌跡』」が完成しました。A4版96ページの大作です。近々協会HPよりダウンロードができるよう準備を進めています。



■今月後半の予定

- | | |
|------------|---------------|
| ①12月15日(火) | e-job 事業事務局会議 |
| ②12月17日(木) | 第184 理事会 |
| ③12月22日(火) | 事業戦略委員会ヒアリング |
| ④12月25日(金) | 仕事納め |
| ④1月5日(火) | 仕事始め |